

# しゃくなげ



DENSOKU  
No. 484号

発行日 2020年8月17日  
発行 株式会社でんそく

## 新型コロナウイルス禍中

常務取締役 金田 俊文

新型コロナウイルスの感染拡大は、いまだ世界を揺るがし続けている。感染拡大が鈍化しても、第2波や第3波が来て必ず長期化する傾向にあると言われていた。日本経済や市民の生活・メンタルに大打撃を与えている現状から、早急な対策とワクチンの開発が待たれるところである。

当社は、過去に無人変電所等へ侵入警戒装置を納入している。今回、電源開発送変電ネットワーク株式会社様の南川越変電所に、マイクロセンサと赤外線カメラによる論理積検出の侵入警戒装置を納品させて頂いた。お客様から2020年東京オリンピックのテロ対策としての保安防護施設強化への一環必須計画であった。3年前にご提案し、社内検討から実証試験を実施してきた。工事着手時は、コロナ渦中時期と重なり非常に厳しい社会環境下で、従業員の皆様には、自らの心身とも大変な思いの中、3月～7月工事に携わってもらった。工事上の安全・品質そして従業員の安全を確保し、①社会インフラ施工を担っている使命感 ②実務への情熱 ③納期厳守に取組み、お客様には多大なご指導・ご協力を頂きながら、トラブル無く無事計画どおり竣工となった。本当に皆さんご苦労様でした。

一方当社の受注状況は、前年度に比べ非常に厳しい状況下にあります。フィロソフィ精神の元、従来以上

に各人が何をしなければならないかを真剣に考えて、会社を上げて各部門間で丸となって話し合い取組みましょう。コロナ関連で社会環境が大きく変遷している中、「コロナ・ショック」を、自らの手で「コロナ・チャンス」へと変え、枠にはまらず、枠を超え、広い視点で物事を見ることが大切で、今までのやり方を変えてみるのが重要であります。前進するには、私たちの知恵と科学、テクノロジーで対抗するしか無く、当社内に保有する技術力を結集してさらに研究開発で、デジタル化をてこにデジタル革新への投資を加速推進させましょう。コロナ期を力強い再生へとシフトする千載一遇のチャンスと捉え、アフターコロナ経営を目指して行きます。

今夏は、新型コロナウイルスへの警戒が続く中、熱中症による高熱やだるさは新型コロナの初期症状と似ていて区別がつきにくく、両方の対策をせざるを得なく誰もが経験したことのないことと予想されます。密閉、密集、密接の3密を回避した「新しい生活スタイル」で感染予防・感染対策を徹底し、ポジティブな思考に転換して、前向きに生活していった方が、賢明と思います。熱中症対策では、継続して「規則正しい食事」「十分な睡眠」「こまめな水分補給」で、暑さに備えた体づくりで乗り切りましょう。

## 黒部川第二発電所改良工事

工事部 幅田 隆寛

この度、黒部川第二発電所改良工事に作業員として従事させていただきました。

今年から最後の号機の三号機が始まり、第一期工事として、三号主盤のケーブル切離しとケーブル・盤撤去等の除却工事と電源ケーブルの移設、作業分電盤の移設等の電気関係工事をしました。どの作業をしている時も、周りに他の作業をしている方々がおられるので頭上や周囲、足元にも注意して移動や作業をしなければならず、特にクレーンやホイスト等で荷上げや荷降ろし中の作業をしている時はお互いに声を掛け合って協調しあいました。大規模な工事では特に声の掛け合いが大事だと思いました。

作業している時に気づいたことが一つあります。それは整理整頓がしっかりとされていることです。

たくさんの方々が輻輳して作業しているのに工具や資材、除却品もきれいに並べてあり、見習わなければならないと思いました。

まだまだ工事は続きますが、常に整理整頓し、作業員の方々と声を掛け合って作業したいと思います。



## 新柳河原発電所安パト

総務部 J.N

7月16日(木)に関西電力(株)様新柳河原発電所の安全パトロールに同行しました。同発電所は黒部峡谷鉄道トロッキに乗車し最初右手に見えるお城風の建物です。構内も丸いのでクレーン運転者にも分かりやすいように、山、川、川上、川下の表示があるのが特徴的でした。

さて、当日の作業内容は無停電工法による制御ケーブル切替工事で、無停電で行う作業なので正確な作業が求められます。近くで見せていただき、沢山のケーブルを確実に接続することは技術力だけでなく大変な神経も使うだろうと感じました。現場では監督者の黒瀬(信)さんの声ははっきりと伝わりやすく、作業者の二人と連携し、息の合った作業をされていました。また、手順書の再確認と確実な養生を実施し、品質と安全の両方を高く意識し作業に従事されている様子がありました。

これからも健康に留意し安全第一で今夏を乗り切りましょう。

## でんそく社史完成!!

株式会社でんそく、創業50周年を記念して社史「でんそくの軌跡 50周年記念誌」を発行しました。50年間で苦労したこと、嬉しかったこと、楽しかったことが綴られています。ぜひ皆さん隔々まで読んでください!



## ～編集後記～



ようやく梅雨が明けたと思ったらもう8月ですね…。しかも猛暑! 富山では全国で一番温度が高い日もありました。皆さん熱中症には十分お気を付けてください!!

さて、コロナの影響であまり外出が出来なかったこともあり、大分体(主に体重)に影響が出てきてしまったので筋トレとマッサージを始めてみました。動画サイトで見つけた筋トレとマッサージ合わせて10分程度のものですが、その短い10分のおかげで続けられています! たまたまですが某100円ショップで100円じゃないヨガマットもお安く購入できました! 形から入ると自分に合ったやり方が見つかるかと長く続くものですね! これからも続けてコロナ太りを解消します!! (Y.M)



「クスノキの番人」  
東野 圭吾  
実業之日本社



環境の変化により、お家時間が増えた中で読書をするならとオススメしたい本を紹介します。

読み終えた人が「明日に希望を持てるように」と思いながら書かれた東野圭吾『クスノキの番人』です。

その木に祈れば願いが叶うと言われているクスノキ。その番人を任された青年とクスノキのもとへ祈念に訪れる人々の織り成す物語。

読み進めていくうちに幻想的な世界観にどんどん引き込まれます。ファンタジーでありながら、家族の絆や思いやりと優しさがぎゅーと詰まった人間味溢れる内容で、最後にはほっこりと心温まる大切な事に気付かされる作品です。

(M.E)



「任して任さず」

松下電工会長 丹羽正治著  
東洋経済新報社

この本は「経営の神様」と言われた松下幸之助との出会いを「自分の人生そのもの」と言う丹羽会長の手記です。何回かのシリーズとして、私達にも関連すると思われる教訓を掲載していきます。

その1

松下幸之助はよく明智光秀と豊臣秀吉の話をした。この二人は、ともに主人である織田信長のために一所懸命尽くしたが、末路は正反対になった。なぜか・・・それは、光秀は主人のためを考えて、主人の悪い所を直そうとした。欠点ばかりが気になり、ついつい信長にそれを口にした。一方、秀吉は信長の欠点は気にならず、長所ばかりを見ていた。良くないことがあっても「偉い人はそんなもの」ぐらいに考えた。二人とも主人を立て、自分は主人についていこうという気持ちに変わりはなかったが、主人に対する視点が違っていた。

ついつい人の欠点(あら探し)を見てしまうと人はいませんか。この世の中に欠点のない人はいないので、欠点を見だすと次から次に発見してしまうものです。見方を変えて、相手の長所を見ようとする気持ちで人に接すると良い人間関係が築けるといいます。ぜひ実践しましょう。(M.T)